

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800218		
法人名	株式会社 ファミリー中部		
事業所名	グループホームファミリー		
所在地	岐阜県土岐市泉町定林寺962-76		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800218-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気と施設の中で、利用者様中心の安全安心で楽しい生活を送れる場の提供と、職員との信頼関係を築きつつ思いや意思を受け入れ気兼ねなく毎日を通して頂けるように支援する。笑顔、ゆっくり、傾聴、共感、情報公開の5大理念の実践。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、既存の建物を利用して開設し、不都合があった所をその都度、改修しながら運営している。長期利用者の重度化対応については、ハード面で環境が追い付いていない所もあるが、管理者と職員は、それをカバーする介護力を持って、常に利用者向き合いながら支援している。職員は、利用者が、「ここが自分の家」「職員は家族」と、安心して過ごせるようチームワークで支援に取り組んでいる。利用者の中には、身寄りのない人、家族と疎遠な人も多く、職員は家族の役割まで担うこともあるが、笑顔で利用者寄り添い、関係機関と連携して運営している事業所である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の業務の中で意識付けしてすべての職員に周知しています。また各職員に冊子を配布しています。	平成13年に開設し、途中、代表の交代があったが理念はそのまま継続している。長く従事している職員も数名おり、職員間で理念の継承がされている。名刺の裏や職員就業冊子等に理念を記載し、意識付けを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺に民家が少なく日常的な挨拶程度に留まっています。	事業所前が幹線道路であり、高速道路ICも近い。周辺には市の青年の家や少年自然の家、企業等がある。日常的な地域住民との付き合いは無いが、ボランティアの出入りや運営推進会議で、区長や民生委員から地域の情報を得て、地域と関わりを持てるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでご家族、民生委員、行政の方々に情報の交換や意見など指導頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表の方々からの苦情、意見や、提案など真摯に受け止め速やかに改善 もしくはアイデアなどを取り入れております。	運営推進会議は、行政担当者、区長、民生委員等の協力を得て、昨年からは、家族が参加し易い夜7時から開催している。今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、市担当者の指導を仰ぎながらの開催となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護支援専門員や管理者が月に2～3回程度 市役所介護保険課、地域包括支援センターに出向き営業や情報の収集を行っております。	市の介護保険課や地域包括支援センターと常に相談できる関係を築いており、生活保護受給者や成年後見制度を利用する人も受け入れている。利用者が重度化や終末期となった時、移転先となる施設の受け入れが困難であったり、退去時の手続き等で管理者が奔走したケースがあった。	生活保護受給者が重度化や終末期に入った時、移転先が長期間決まらない状況や、身寄りのない人の退去については、事業所の負担が大きい。契約時に事業所方針を明確にし、行政の協力を受けられる体制作りを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの講習や研修、または社内研修に参加して、職員全体に徹底して周知しております。	身体拘束廃止委員会は、運営推進会議の中で行っている。毎月、外部講師による社内研修を実施したり、職員一人ひとりが考える主体的な研修も実施し全体に周知させている。今後は、運営推進会議と身体拘束委員会の議事録を分けて作成するとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に講習に参加し、後日講習修了者が全職員に説明、情報の共有を行っております。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の講習に参加し、なぜ必要かを理解し、職員全体で情報の共有をしています。また現在活用してみえる利用者様に対してもその後の理解を深めていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と合わせて十分説明し、納得頂いたうえで、契約をさせていただいております。契約後もその都度疑問点には丁寧に説明させて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の設置と苦情相談窓口の設置、玄関入口には、御意見箱を設置し、常時対応できる体制を整えおります。	家族の事情により、訪問は少ないが、毎月、利用者の写真入り「ファミリー新聞」や、主治医の往診結果及び身体状況票を家族に送付している。さらに職員からのコメントを書く取り組みを計画していたが、人手不足で実施できなかった。3か月毎のモニタリング報告時に、コメントを添えることに変更し実施する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングは月に一度の開催が理想ですが、時間的余裕 人員不足のため2カ月に1度のペースになってしまっているのが現状です。	職員の要望により、ミーティング回数を減らし、必要な情報は連絡ノートで周知を図っている。管理者と職員は、自由に意見を言い合える雰囲気があり、人手不足も勤務体制の工夫でカバーしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与 賞与等、評価項目シートを活用し、評価の高い職員には反映しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習や研修費は会社負担とし、積極的に活用してもらえるよう働き掛けています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や病院などの連携の勉強会に介護支援専門員 管理者 職員などが出席、意見の交流を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご自宅 病院での面接を行い、ご本人ご家族様からのご意向も伺い、ご利用中の支援に反映させて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時 または開始後もご家族様との連絡を密にし、不安やご要望を改善すべく努力してまいります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先しなければならない課題を職員すべてが連携し、担当者会議などを活用し周知してまいります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の尊厳を重んじて、どのような些細な言動も軽視することなく、共に生活しているものとしての関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	春には花見、夏には花火大会 秋には紅葉 冬にはクリスマス会等 その都度四季を感じていただけるよう努力はしておりますがコロナウイルス渦の関係でご家族様の面会もままならない状態が続いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ADLの低下などにより一部の利用者様のみに偏ってしまうのが現状です。	長期入居の利用者は、知人や馴染みの人の高齢化も進み、関係が徐々に途切れがちになっている。職員は、利用者の友人、家族等の来訪時には、笑顔で対応し、再来の声掛けをしている。現在は、新型コロナ感染予防の為、面会を自粛しており、電話対応等で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の趣味 趣向を把握し、共有の場に生かせるよう努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望があれば、ご家族様の了解のもと情報を提供し、ご本人 ご家族様のフォロー、支援に努めてまいります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応ができるよう、傾聴に努め、困難な場合はご家族様にも相談、提案をいただいております。	本人・家族に、事業所として支援できることと、出来ないことを分かり易く伝え、出来る範囲で個別対応にも努めている。利用者の生活歴や職歴等の情報を事前に把握し、生活支援の中でも、利用者の思いや意向を聴いている。意思疎通が困難な場合は、日頃の様子から推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴 既往歴などを詳しく聞き取り、介護看護一丸となって情報の収集に努めてまいります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日 週 月単位で、全職員が情報の共有を図り、継続して支援に繋げてまいります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で利用者様やご家族とのモニタリングを行い、その都度見直し、計画の作成に携わっております。	3か月毎に、介護記録を基に全職員でモニタリングを実施し、検証しながら利用者の現状に即した支援につなげている。モニタリング結果の積み重ねを次の介護計画に活かし、介護支援専門員をはじめ、チームで計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録簿を活用し、職員間の共有、要望等の把握に努め介護計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族様のご要望すべてを支援するには職員数などの兼ね合いもありますがなかなか実行に移す機会に限りがありますがインフォーマル等を活用して今後も努力してまいります。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各地域のインフォーマルなサービスも活用して個々での外出等も楽しんで頂きたいのですがコロナウイルス渦でままならないのが現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本 主治医の見える病院での受診を行っておりますが月に2回 往診がありまして 健康管理 処方薬 意見書の依頼も行っています。	利用者は、協力医を主治医として選択し、月2回の往診を受けている。緊急時や家族の都合によっては、訪問看護ステーションと連携しながら、専門医への受診介助を行なうなど、人手不足の中でも、適切に支援を行っている。週3回、透析を受けている利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	絶えず情報を伝え指示を頂いて対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご家族様の了解のもと、速やかに情報を提供し、一日も早い回復の支援をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの契約をさせていただいた場合はご利用者様 ご家族様とよく御相談させていただきながら、また地域の方の協力を得ながら、ホームでの最期を送られるよう支援してまいります。	契約時に、事業所の方針として、看取りは行わないとし、本人・家族に説明している。利用者の重度化により、適切な入浴支援、トイレ介助が困難となり、受け入れ先もなかった為、職員が長期間、大きな負担で支援したケースがある。今後は、身寄りのない人や生活保護受給者の対応について、契約時点で明確にしていくことを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救命救急の講習会に参加し、スキルアップに努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施 夜間想定も行っています。またマニュアルも作成し、全職員が同一の行動が取れるよう努力しております。	消防署の指導により、調理機器をガスからIHに替えている。建物の耐震にも課題があるが、同建物の2階は所有者が異なり、災害訓練も別になっている現状である。水の備蓄があり、今後、食料も追加する予定である。	建物の所有者が複雑になっていることと、周辺の道路は勾配があり、迅速な避難が難しい。年2回の訓練に留まらず、火災や地震等の避難シミュレーションを繰り返し、全職員が安全な避難誘導を身につけられる事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を否定しない 傾聴をモットーにことばかけや対応に努めております。同性介助が出来ない場合は特に声かけを多く、不快感を感じていただかないよう努めております。	入浴時には、共用の場所から見えないように衝立を設置している。同性介助での支援でプライバシーの確保に努めているが、現在、女性利用者が9割であり、男性職員が多い勤務シフトでは難しい時もある。入浴やトイレ誘導時は、利用者の気持ちを察して、出来る限り配慮しながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい利用者様には時間をかけ、傾聴してまいりたいのですが、職員が手薄な時はままならないのが現状です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか対応の出来る職員数ではないのが現状です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時 入浴後ご希望に添えるよう援助しております。コロナウイルス渦で理美容の利用が思うように出来ないのが現状です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギー 持病に合わせたメニューの提供を心がけております。	職員は、献立作り、買い物、一部の配達サービスも利用しながら、食事作りをしていたが、今年度から、献立に合わせた食材配達サービスを利用し、味付けや量の配分は職員が行っている。利用者の状態に合わせて代替食も用意し、嚥下に問題のない人には、安全に美味しく食べられるよう、大きさを変えて「餅」も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ファイルに健康状態 食事量 水分量を記載、職員が共有することで過度 不足のないよう管理しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日2回の口腔ケア 夜間の義歯洗浄を行っています。		

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の周期を各利用者様で把握し、声かけを行っています。また、水分補給後の声かけを行っています。	排泄記録から個々の排泄リズムを把握し、声掛けと誘導で支援している。見守りのみの人は、職員が後始末が出来るかを確認している。重度で立位姿勢が取れない利用者は、おむつを使用して清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訴えの乏しい利用者様には特に注意を払い、観察をおこないながら、声かけを行っています。また普段のレクリエーションに腸内活動の運動を取り入れたり、定期的に便秘薬を服薬し、コントロールしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のタイミングで入浴するのは職員の配置上、なかなか難しいところもありますが、毎日入浴時間があるため、前日拒否の強かった利用者様には翌日入浴していただいたりとかの支援はさせていただいております。	週3回、午後入浴を基本にしているが、状況に応じて柔軟に対応している。入浴の時間帯や、同性介助の希望は、出来る限り応えられるよう努めている。機械浴を設置できる場所の確保は難しく、重度の人には事前に浴室を暖め、気持ち良くシャワー浴が出来るよう工夫し、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて食後に臥床していただいたり、外出後に臥床していただいたり個々のニーズに合わせて支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報の共有を図り、誤薬のないよう、また薬が効き過ぎていないかの観察を怠らず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合わせた役割分担を持っていただき、共同生活を行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス渦でなかなか外出できないのが現状です。ご家族様の面会も控えていただいております。	近くの道の駅や市産業文化振興センターに出掛けたり、喫茶店や買い物、花見等、外出の機会を設けている。今年度に入ってから、新型コロナ感染予防の為、外出を自粛している。外出の機会が少ない中でも、敷地内の庭で外気浴、バーベキューや花火を楽しむなど、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホームファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本施設では通帳 金銭を印鑑などはお預かりしておりません。必要な時は立て替え、ご家族様に請求しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があるときはご家族様に相談し、対応させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備は毎日行い、四季を感じていただけるよう生花を飾っております。	既存の建物を改修して開設しており、生活する中で不都合な点は、その都度、工夫しながら改善している。共用の場所に大きなテーブルが設置され、食事をはじめ多目的に活用し、家庭的な生活空間となっている。庭に咲く野の花を飾り、季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の交流は大切にさせて頂いておりますがおひとりになりたいときは少し離れた所から見学していただいたり、居室で過ごしていただきますが、どうしておひとりになりたいのかもお訪ねしており、今後の対応に配慮させて頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で愛用されてました家具 小物類はご家族様と相談し、施設でも活用させて頂いております。	居室には、ベッド、椅子、衣装ケースがあり、馴染みの小物類を持ち込んで、落ち着いて過ごすことができる。開き戸の取っ手を開けやすくしたり、手の届く場所に物を置いて、利用者が自分で出来る事を維持できるように工夫するなど、居室での生活を居心地良くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何度も間違えたり、困ってみえる個所はぬいぐるみを置いたり、張り紙などをして対応しております。また開き戸の取っ手を工夫し、おひとりで開けられるよう自立した生活を心掛けております。		